必ず、大会に参加される方はルールを確認してください。

以下以外にも、ルールの改正はございます。

◆「ＪＴＡ　テニスルールブック　２０１８」より一部抜粋

1.セルフジャッジの方法

3)　判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す

14）各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。

a「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれか

b「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チーム

c「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー(アシスタントレフリー)、ローピングアンパイアのいずれか

16)妨害によるレットのコール

a コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。

b 対戦相手による無意識の妨害(落とし物１回目を含む)は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。２回目以降は故意に妨害したとして失点する。

17)誤ったコールを直ちに訂正した場合

インだったボールを誤って「アウト」とコール(ミスジャッジ)したが直ちに訂正(コレクション)した場合は、１回目は故意でない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかにウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。そして、２回目以降は故意に妨害したとして失点する。